

2019年度 調査結果（2018年4月発行）

海外留学生のキャリア意識と就職活動状況

経済の国際化ならびに新興国の急成長が進む状況において、グローバル人材としての活躍を期待できる留学経験者の需要は、ますます高まっている。ディスコでは海外の大学で学ぶ正規留学生や交換・派遣留学生を対象に、職業観や就職活動に関するアンケートを実施した。比較可能なものに関しては国内学生（キャリアス就活・学生モニター）の調査結果や過去データを引用しながら、その特徴を分析したい。

【主な調査内容】

1. 現在の英語力	P 2
2. 就職したい理由	P 2
3. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由	P 3
4. 志望業界	P 4
5. 志望職種	P 5
6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点	P 6
7. ベンチャー企業への関心	P 7
8. 就職活動の開始時期	P 8
9. 日本の就活スケジュールへの賛否	P 8
10. 企業研究をする上で知りたい情報	P 9
11. インターンシップの経験	P 9
12. 企業に評価してもらいたいこと	P 10
13. 留学前に不安だったこと／実際に困ったこと	P 11
14. 留学費用	P 11
15. 留学をした感想	P 12

《調査概要》

調査対象：CFN (www.careerforum.net) に登録している【日本人留学生】のうち、卒業時期が2017年5月以降の者 8,049人
 調査方法：インターネット調査法
 調査期間：2018年2月21日～3月19日

回答者の属性 単位：人

留学形態	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	留学先地域・国	全体
正規留学	199	52	96	27	24	北米	251
交換・派遣留学	226	76	132	8	10	英国	69
語学留学	37	18	18	1	0	その他ヨーロッパ	86
その他	9	3	6	0	0	オセアニア	25
合計	471	149	252	36	34	アジア	35
						その他	5
						合計	471

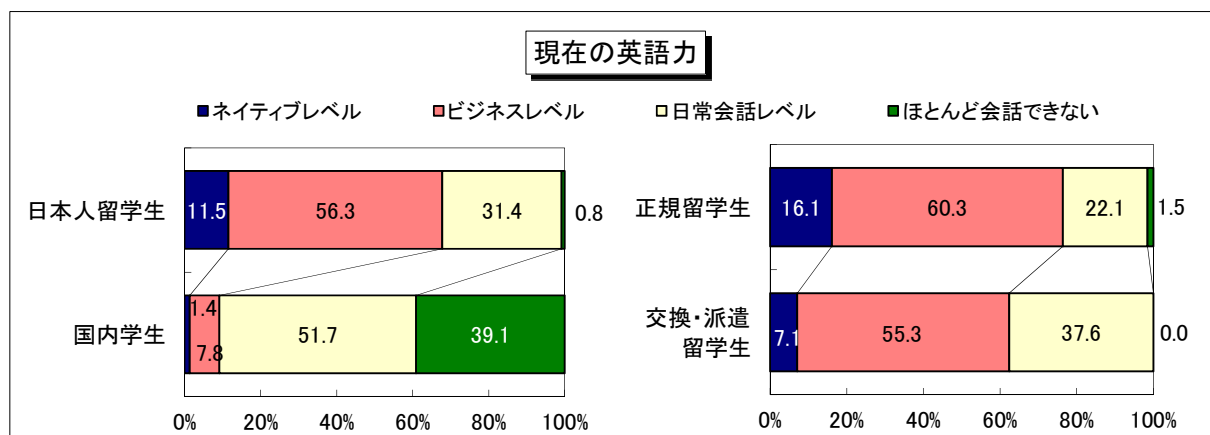
※国内学生の調査結果は「キャリアス就活2019 学生モニター調査」より

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505／株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

1. 現在の英語力

まず、現在の英語力について尋ねた。「ネイティブレベル」という回答が11.5%、「ビジネスレベル」が56.3%で、ビジネスで英語を使うことができる学生は7割近くに上る(計67.8%)。国内の大学・大学院で学ぶ学生(以下、国内学生)の英語力を見ると、ビジネスレベル以上は1割未満(9.2%)にとどまっており、留学生の英語力が非常に高いことがわかる。

また、留学生の回答を留学形態別に比較すると、ビジネスレベル以上は正規留学生で76.4%、交換・派遣留学生で62.4%と、海外生活が長い分、正規留学生の方が英語力が高い。

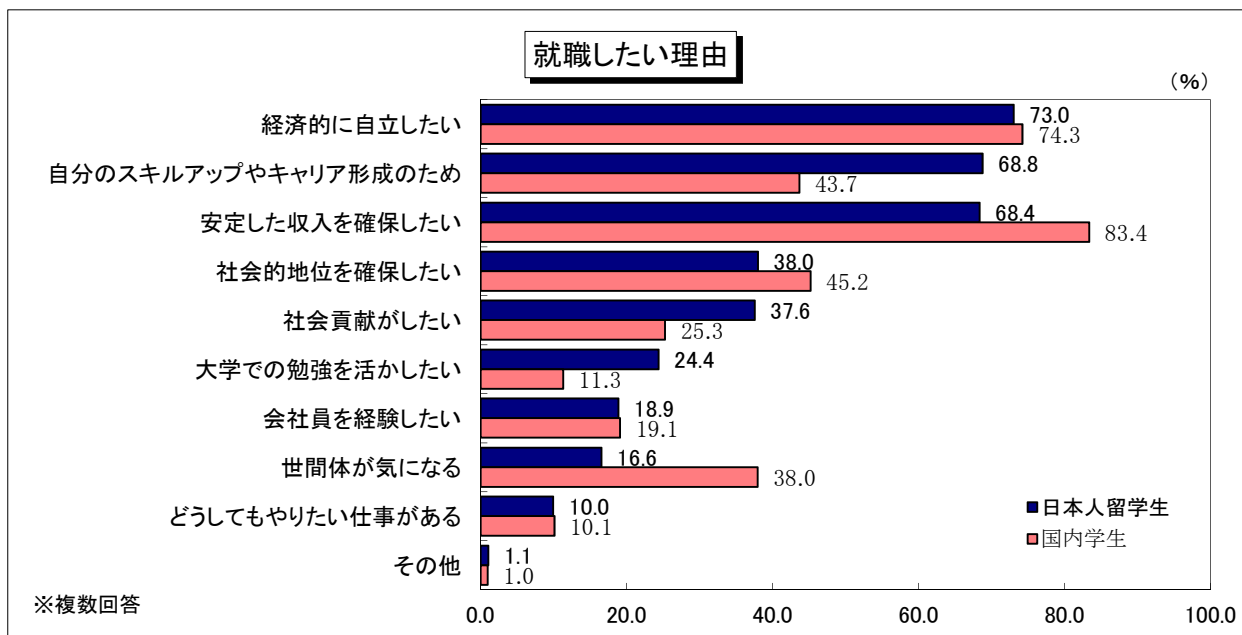


2. 就職したい理由

就職したい理由を尋ね、国内学生と比較した。留学生が最もポイントが高いのは「経済的に自立したい」で73.0%。次いで「自分のスキルアップやキャリア形成のため」(68.8%)が続く。

一方、国内学生は「安定した収入を確保したい」が最も高く、8割を超える(83.4%)。「自分のスキルアップやキャリア形成のため」は43.7%で、留学生と25.1ポイントもの差があった。また、「社会貢献がしたい」や「大学での勉強を活かしたい」についても、留学生が国内学生を大きく上回った。

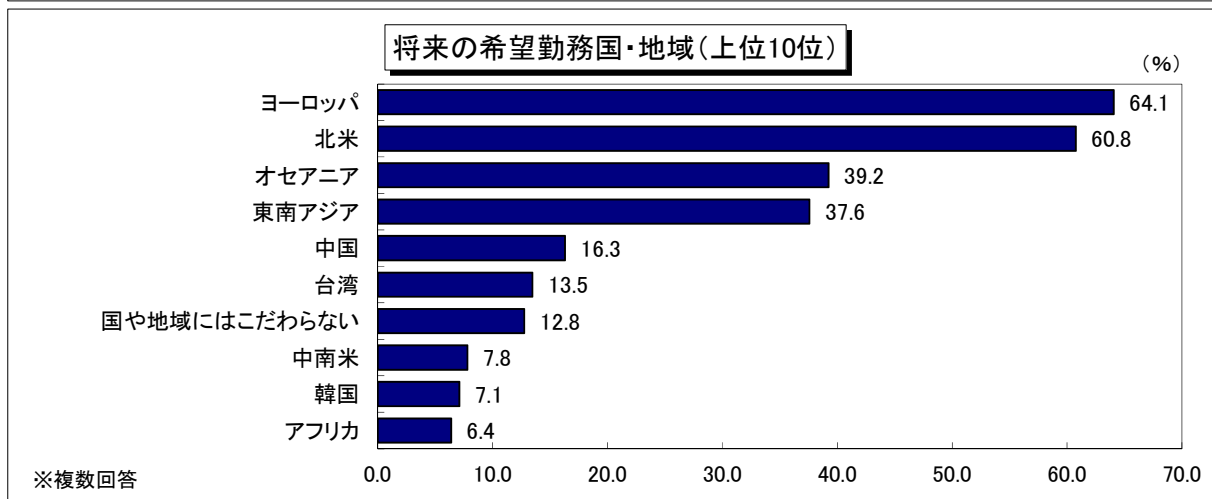
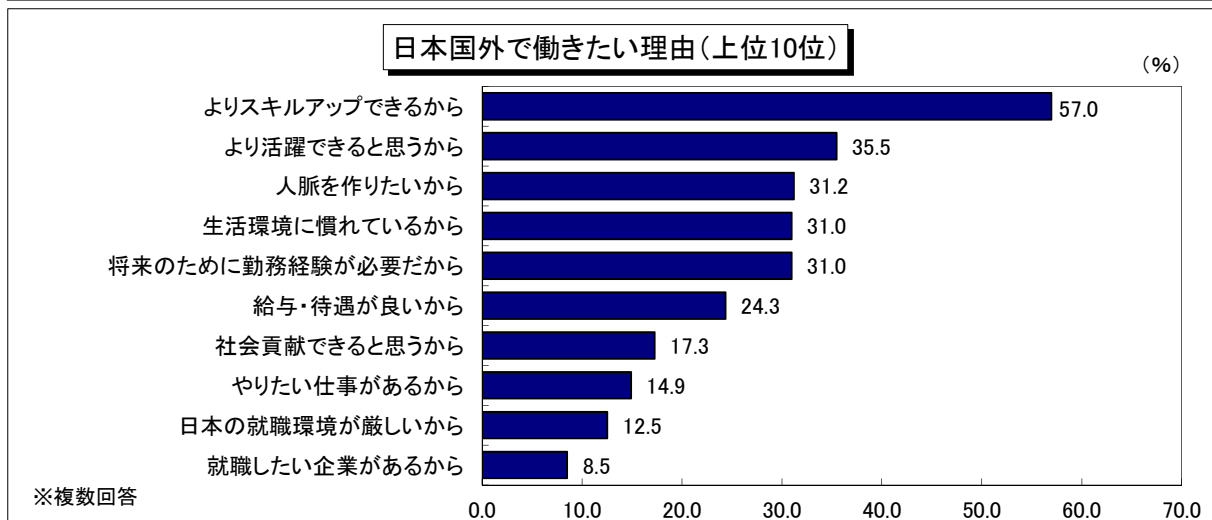
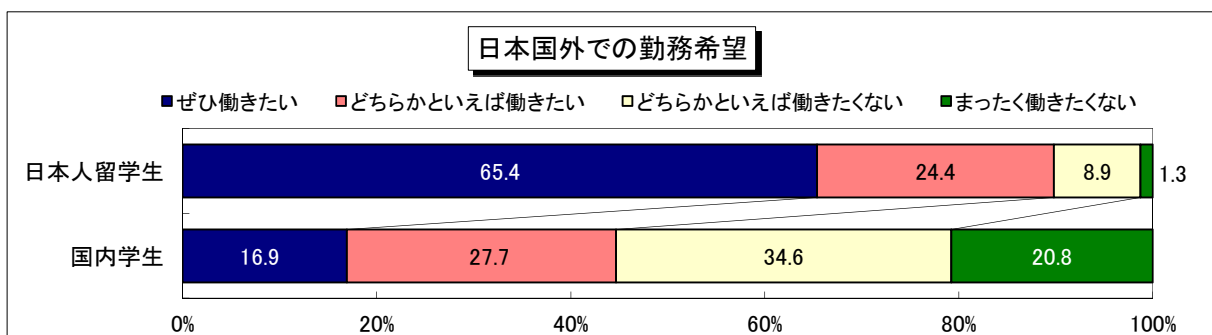
留学生は、就職をスキルや経験獲得の場と捉え、社会に利益を還元しようとする意欲が強いといえる。



3. 海外での勤務希望と海外で働きたい理由

日本国外（海外）での勤務について、留学生は「ぜひ働きたい」が65.4%で最多回答。「どちらかといえば働きたい」(24.4%)も含めると、海外での勤務を希望する学生は約9割に上る(89.8%)。国内学生は「ぜひ働きたい」が16.9%で留学生の約4分の1程度であり、「どちらかといえば働きたい」(27.7%)を合わせても半数を下回る。留学生の海外勤務への意欲は極めて高い。留学生が海外で働きたい理由を見ると、「よりスキルアップできるから」が突出して高く、約6割に上る(57.0%)。前ページで見たように、留学生は就職をスキル獲得の場と捉える傾向が強い様子がここにも表れている。

なお、具体的に働いてみたい国や地域は「ヨーロッパ」が最も多く(64.1%)、次に「北米」(60.8%)が続く。留学先の地域の過半数が「北米」であることを鑑みると、必ずしも留学先地域での勤務にこだわっていないようだ。

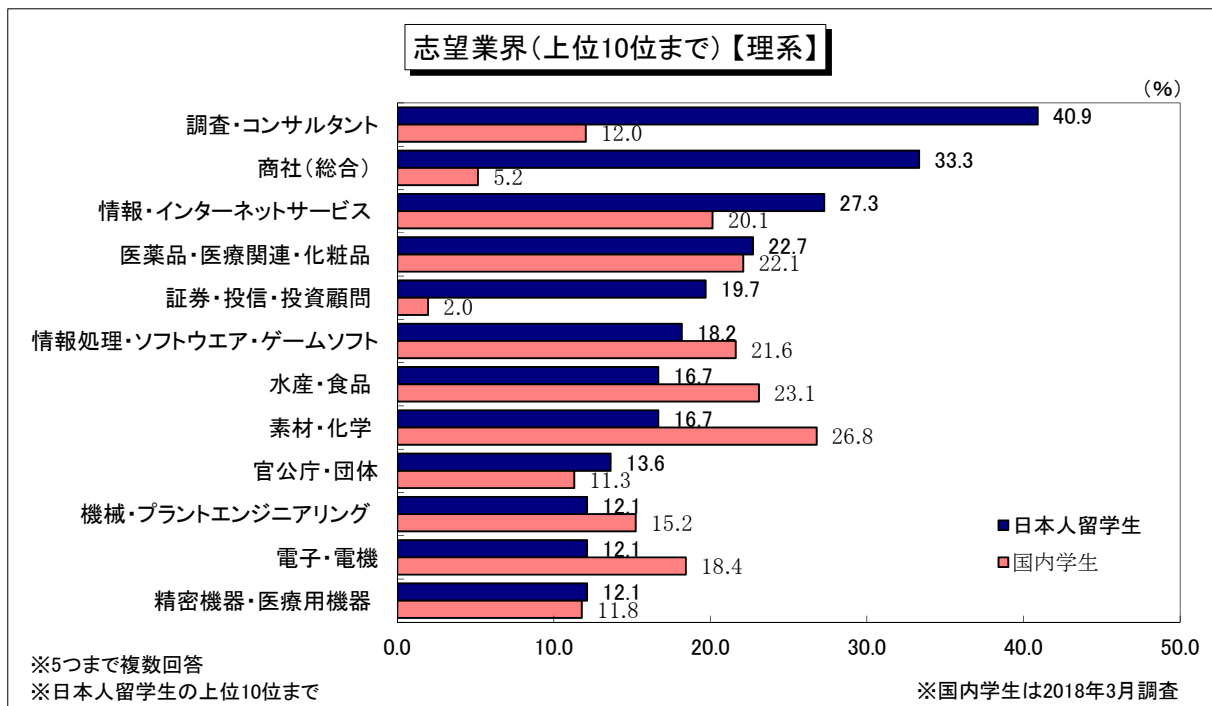
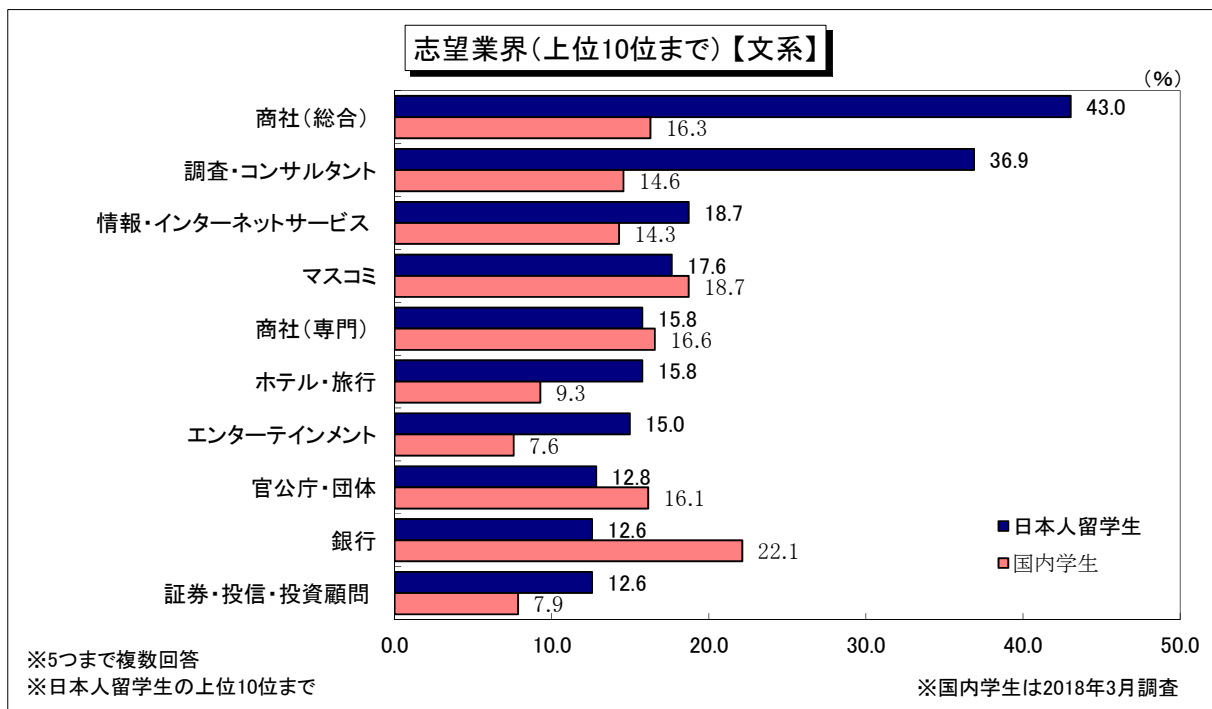


4. 志望業界

志望する業界について、40業界から5つまで選んでもらった。

まず文系を見ると、留学生は「商社（総合）」(43.0%)と「調査・コンサルタント」(36.9%)の2業界が突出して高く、次に「情報・インターネットサービス」(18.7%)が続く。一方、国内学生は「銀行」(22.1%)が最も多いが、留学生ほどの集中傾向はなく、「マスコミ」や「商社」などにも人気分散している。

理系を見ると、留学生は「調査・コンサルタント」(40.9%)、「商社（総合）」(33.3%)、「情報・インターネットサービス」(27.3%)の順に多い。国内の学生については、文理で高順位業界に相違があるのに対して、留学生の上位3位業界が文理で共通しているのは特徴的である。

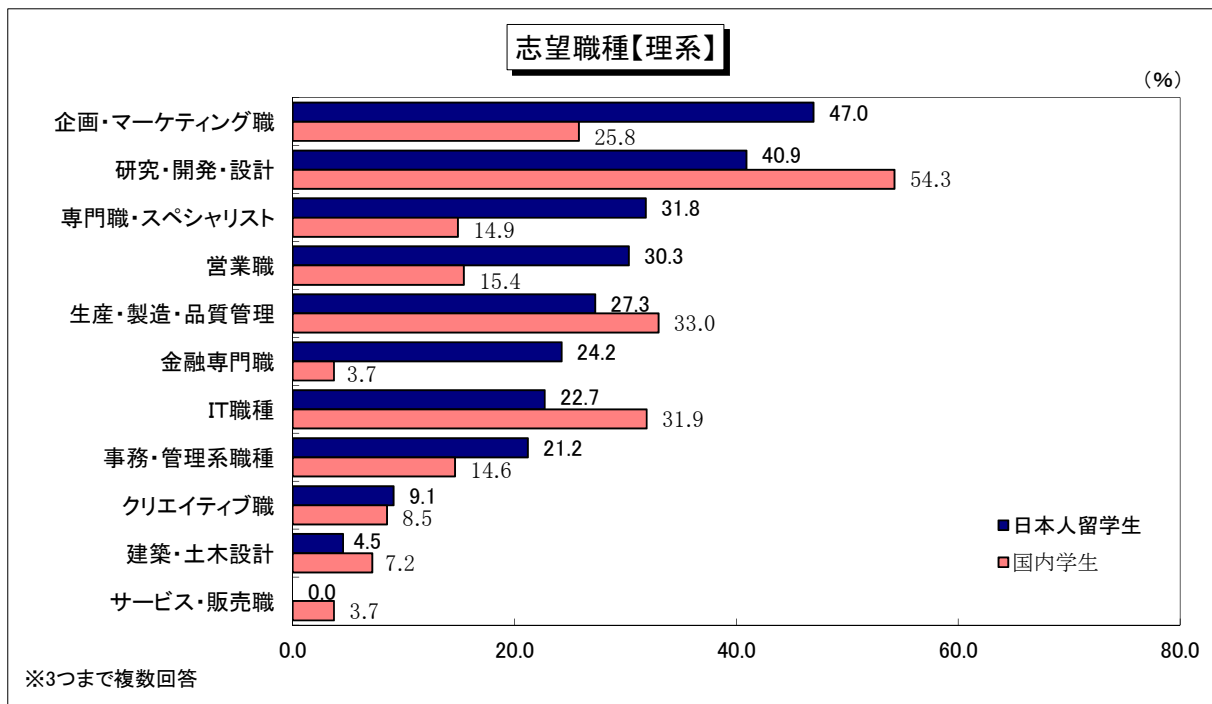
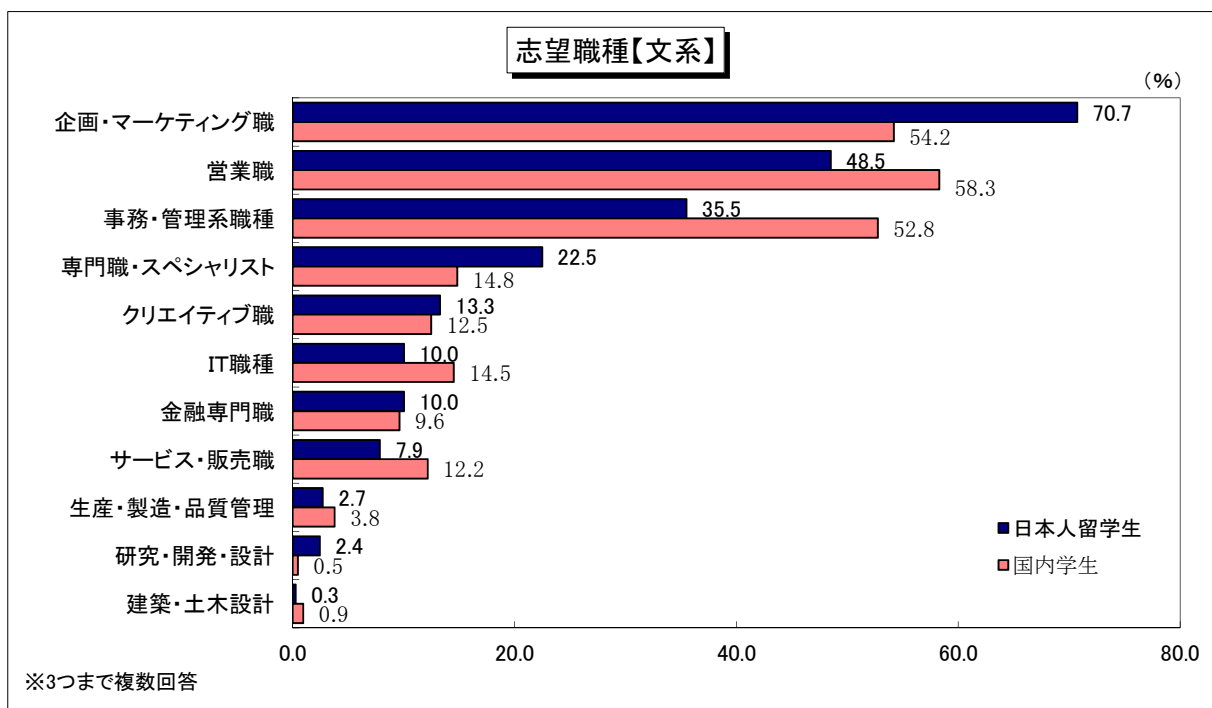


5. 志望職種

志望する職種について、11 職種から 3 つまで選んでもらった。

文系では、留学生は「企画・マーケティング職」に集中しており、7 割以上 (70.7%) が選んだ。ちなみに、国内学生は「営業職」「企画・マーケティング職」「事務・管理系職種」などの人気が高い。

理系留学生では、「企画・マーケティング職」(47.0%) が最多回答で、文系留学生と同じとなった。なお、国内学生は「研究・開発・設計」「生産・製造職」「IT 職」などいわゆる技術系職種に志望が集中している。前ページで見たように、理系留学生はメーカー以外の志望者も多いといった志望業界の違いが、志望職種の違いにも影響しているとみられる。

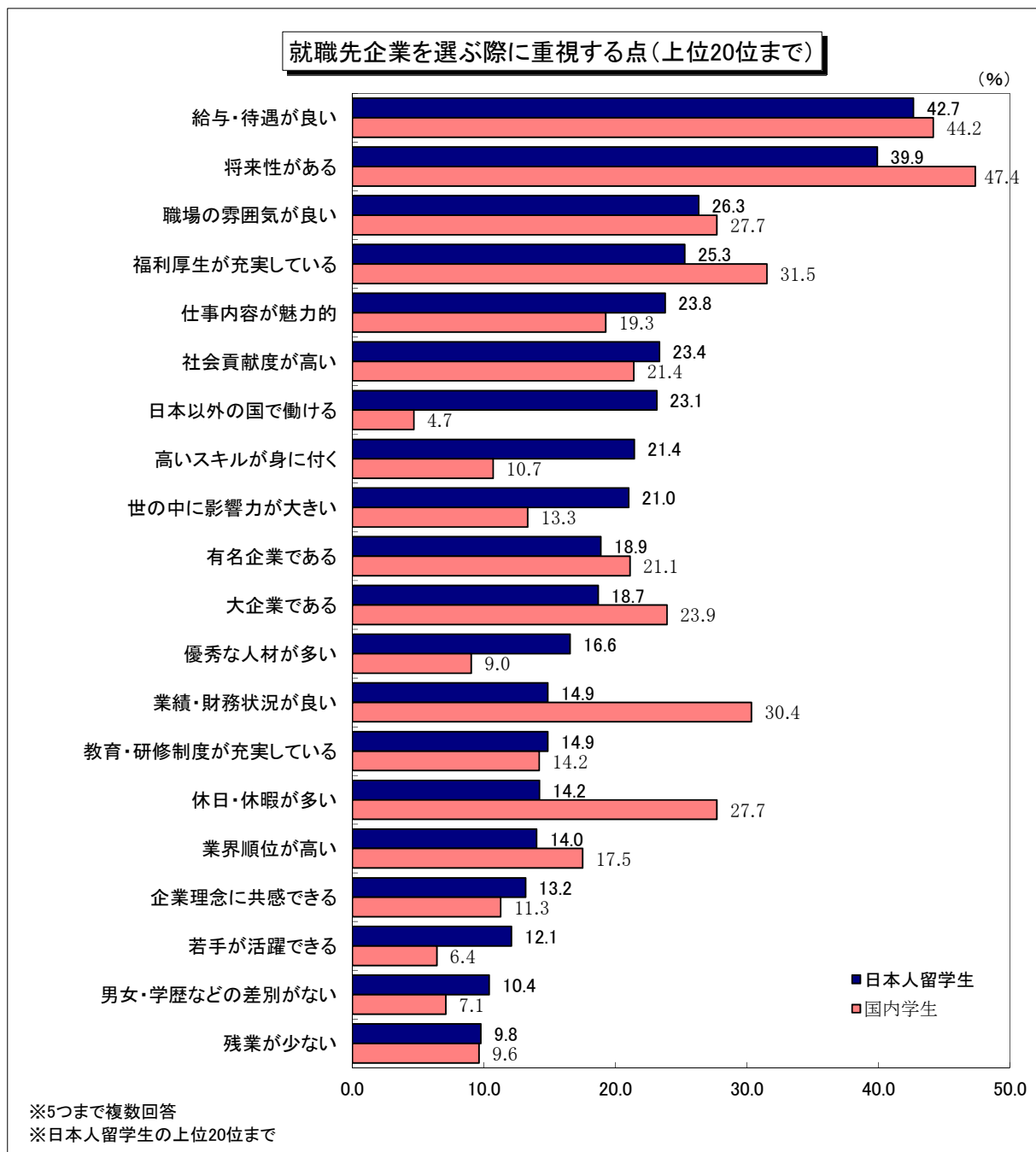


6. 就職先企業を選ぶ際に重視する点

就職先として企業を選ぶ際に重視する点を国内学生と比較した。留学生と国内学生ともに「給与・待遇」「将来性」が上位2位となったが、下位の項目に差が出ている。

「日本以外の国で働ける」「高いスキルが身に付く」などの仕事環境・内容に関する項目については留学生の方が高い関心を持っている。一方、「業績・財務状況が良い」「休日・休暇が多い」などの会社の安定性・制度に関する項目については国内学生の方が注目している。

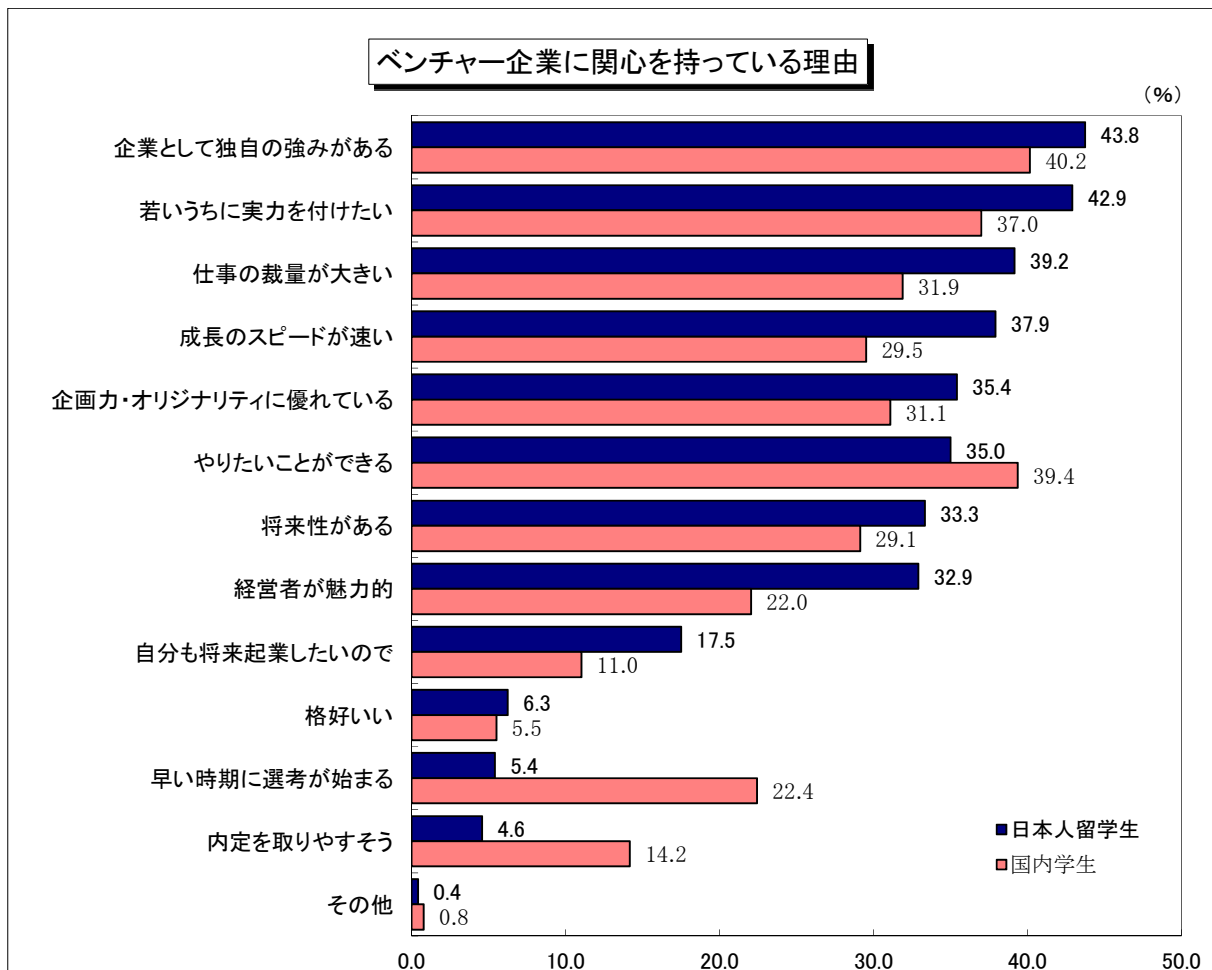
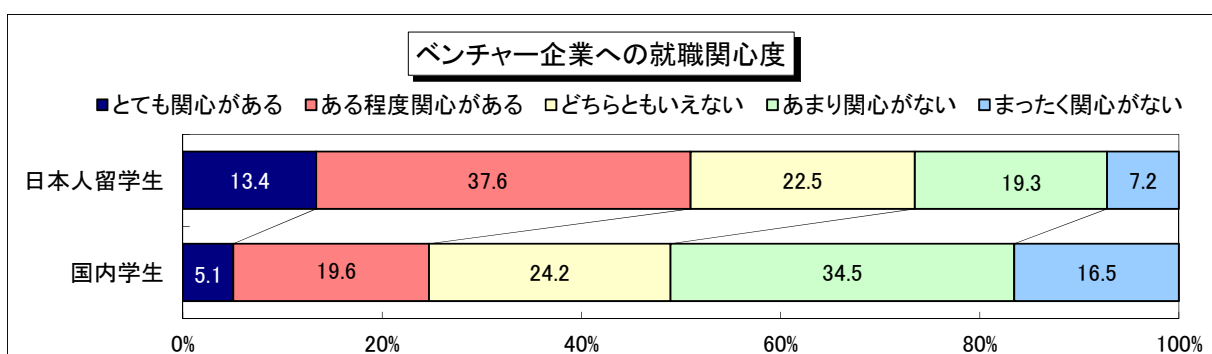
全体的に国内学生は会社軸で見ており、「就社」の側面が強いのに対し、留学生はスキルの獲得など仕事軸で企業を見ている点が特徴的だ。



7. ベンチャー企業への関心

留学生と国内学生の双方にベンチャー企業への就職意向を尋ねた。留学生は「とても関心がある」が13.4%、「ある程度関心がある」が37.6%で、半数を超える(51.0%)学生がベンチャー企業への就職に関心があると回答した。これに対し、国内学生の回答はそれぞれ5.1%、19.6%と低く、関心のある層は3割未満に限られる。

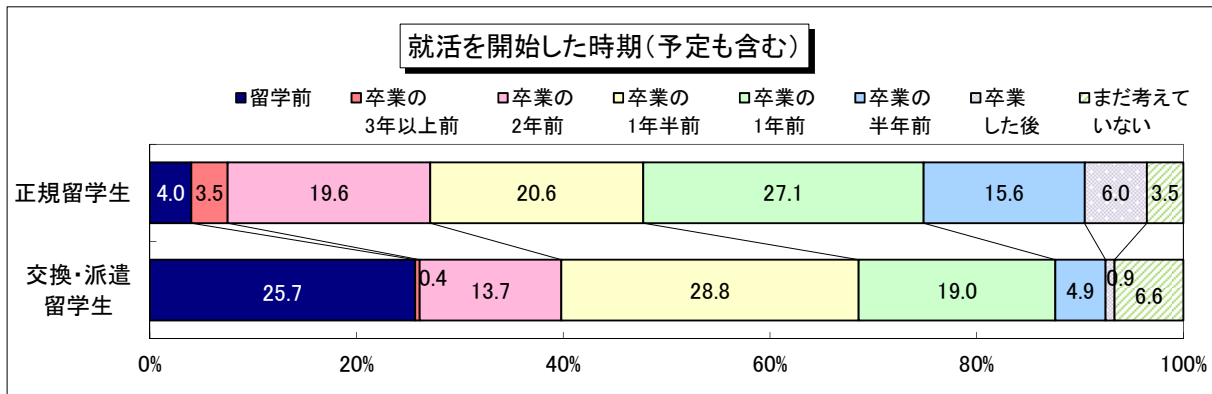
留学生がベンチャー企業に関心を持っている理由を、国内学生と比較した。「若いうちに実力を付けたい」「仕事の裁量が大きい」「成長のスピードが速い」といった項目については留学生の方がポイントが高い。就職したい理由(2ページ)で見たように、就職をスキルや経験を積む場と考える留学生にとって、ベンチャー企業の環境は魅力的に映るようだ。また、「経営者が魅力的」についても留学生のポイントが高く、仕事内容や環境だけでなく、企業の経営者にも関心が及んでいる様子がわかる。



8. 就職活動の開始時期

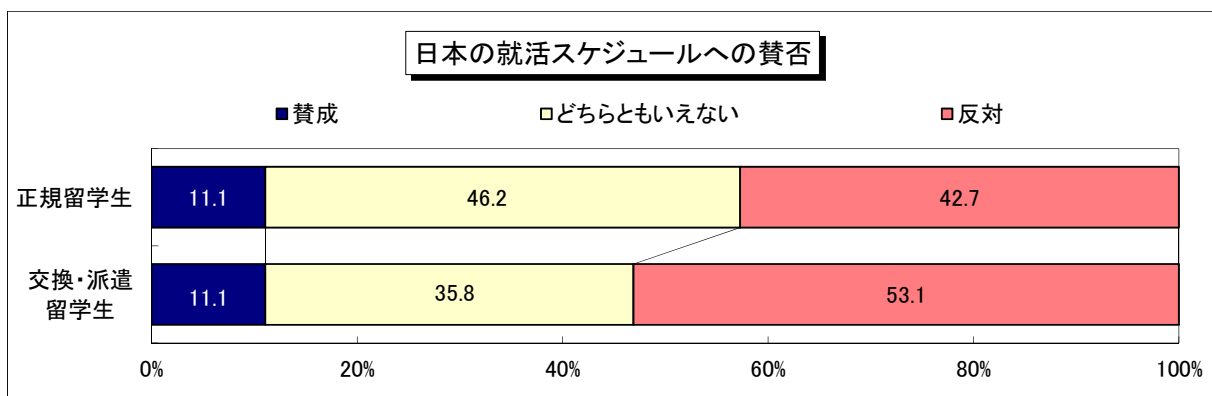
就職活動の開始時期について尋ねた。正規留学生の就職活動の開始時期は「卒業の1年前から」が最多で27.1%、一方の交換・派遣留学生は「卒業の1年半前から」が最多で28.8%だった。

全体的に、正規留学生の方が卒業に近い時期、あるいは卒業後に就職活動を開始している人が多い。日本の就職活動時期に合わせて帰国できないことが原因だろう。



9. 日本の就活スケジュールへの賛否

日本の就活スケジュールについて、賛成か反対かの意見を尋ねた。正規、交換・派遣留学生ともに、「賛成」が1割程度と低く、「反対」の割合の方が格段に高い。交換・派遣留学生においては、「反対」と答えた割合が半数以上に上った(53.1%)。反対する理由を尋ねると、正規、交換・派遣留学生ともに、「帰国のタイミングと合わず学業と両立できない」「通年採用の方が良い」という声が目立った。一方で、「一斉に始まるので情報収集が容易かつ就職活動に専念できる」「日程が決まっているため計画的に準備できる」などという声も見られた。



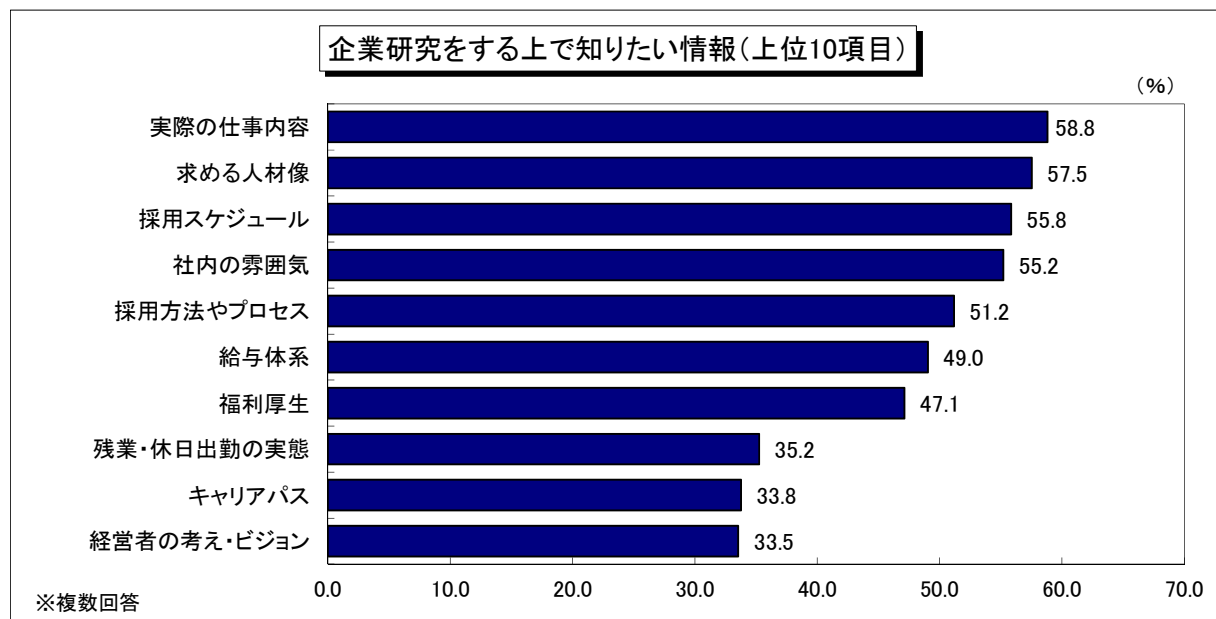
■日本の就活スケジュールへの意見

- 留学している学生の平均的な帰国時期は7月頃であり、選考解禁時期に間に合わない。さらに、選考解禁時期に従っていない企業もあって、多くの企業を逃してしまう。 <正規留学>
- 欧米のように学生が大学を卒業した後や通年で採用活動を行って欲しい。留学などをする身からすれば、一括採用は非常に不便で不利である。 <交換・派遣留学>
- 大学卒業後の通年採用というグローバルスタンダードに合わせるべき。 <交換・派遣留学>
- 一斉に始まるので、情報収集が比較的容易かつ、友人等と刺激し合いながら就職活動に専念できるというメリットを感じる。 <交換・派遣留学>
- スケジュールがきっちり決まっているので、計画的に準備が出来る。 <正規留学>
- 海外留学生向けに採用スケジュールを組むなど、個別対応してくれる企業もあるので関係ない。 <正規留学>

10. 企業研究をする上で知りたい情報

企業研究をする上で知りたい(知りたかった)情報について尋ねた。「実際の仕事内容」が最も多く6割を超える(58.8%)。また、「求める人材像」(57.5%)、「採用スケジュール」(55.8%)、「社内の雰囲気」(55.2%)「採用方法やプロセス」(51.2%)など、多くの項目が半数以上の回答を得ている。

地理的・時間的制約が大きく、企業説明会やOB・OG訪問などの情報獲得の機会が限られる留学生にとって、多くの情報を得ることが就職活動の課題となっている様子がうかがえる。

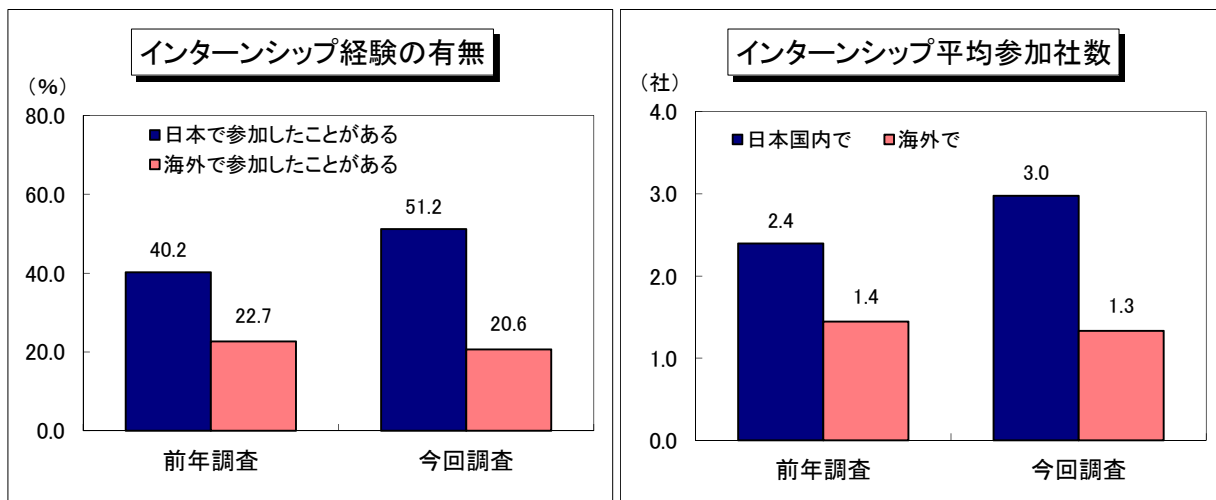


11. インターンシップの経験

今回の調査では61.6%がインターンシップ経験ありと回答。日本での参加経験者が51.2%で、海外での経験者が20.6%だった。前年調査の数値(40.2%)と比較すると、海外での参加経験は横ばいであるのに対して、日本での参加経験は10ポイント以上伸びている。

インターンシップの参加社数は、日本国内が3.0社、海外は1.3社だった。参加社数についても、インターンシップ経験と同様に日本国内で数値が上昇している。

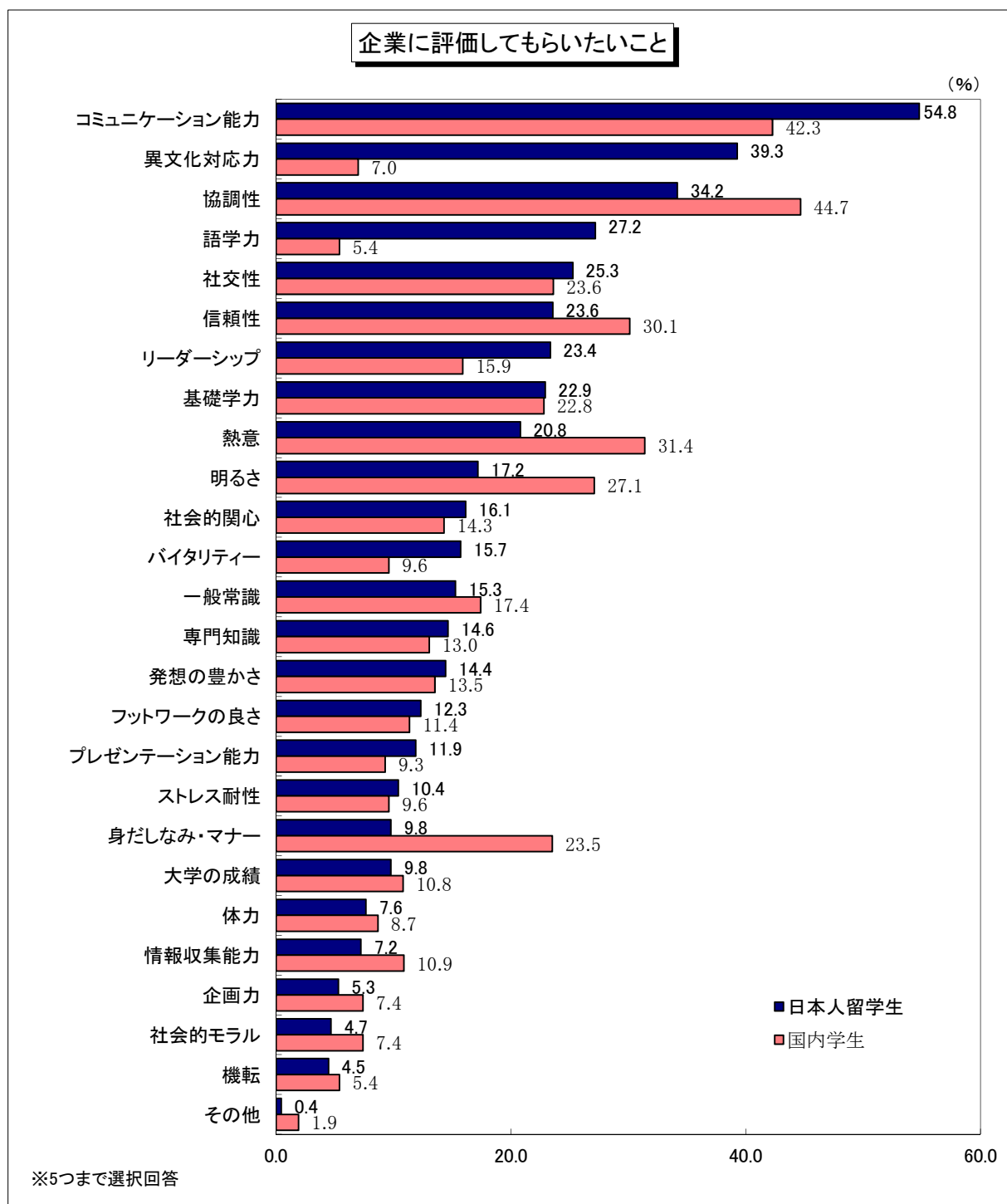
近年、国内企業のインターンシップ実施はますます盛んになっている。このことが、国内学生だけでなく、留学生のインターンシップ参加も後押ししているのだろう。



12. 企業に評価してもらいたいこと

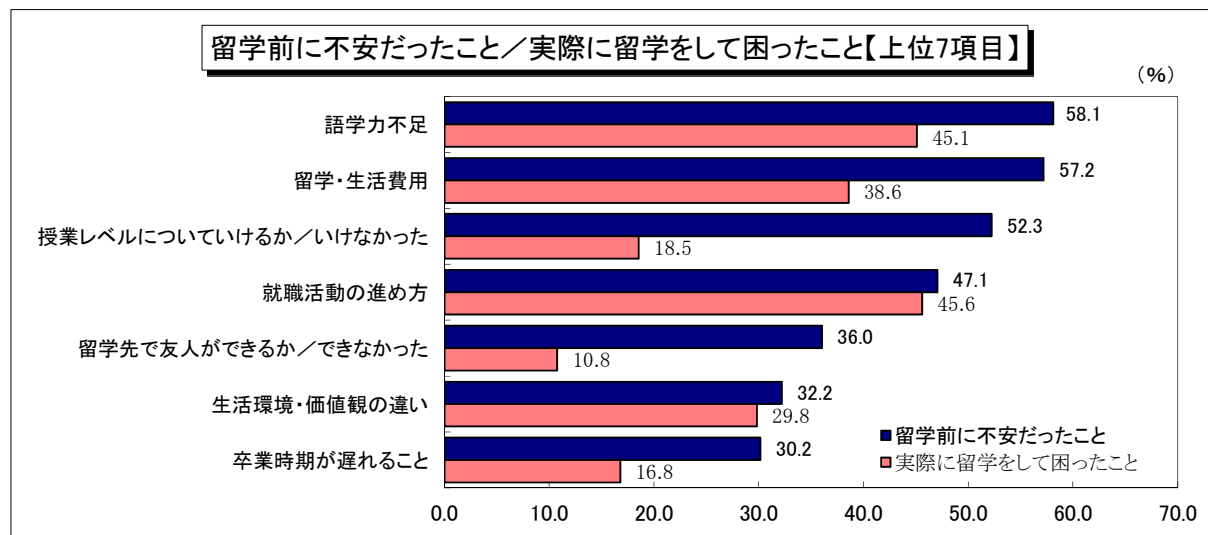
選考にあたって企業に評価してもらいたいことを尋ねたところ、留学生と国内学生で大きく異なることがわかった。留学生が評価してもらいたいこととして最も多いのは「コミュニケーション能力」(54.8%)で、「異文化対応力」(39.3%)が続く。また、「語学力」「リーダーシップ」「バイタリティー」なども、国内学生に比べてポイントが高く、海外留学経験を通じて向上させた能力や資質を評価してもらいたいと考える学生が多いことがうかがえる。

一方、国内学生が評価してもらいたいこととしては、「協調性」「コミュニケーション能力」「熱意」「信頼性」などが上位に来ており、組織のなかで円滑に業務を遂行できる能力をアピールしたいようだ。



13. 留学前に不安だったこと／実際に困ったこと

留学前に不安だったことを尋ね、実際に留学をして困ったことと比較した。留学前は、「語学力不足」(58.1%)、「留学・生活費用」(57.2%)、「授業レベル」(52.3%) を不安と感じている学生が多かったが、留学後はポイントを大きく下げている。これに対し、「就職活動の進め方」については、留学前後のポイントが同水準で、不安が解消されていない。さらに、「就職活動の進め方」は実際に留学後実際に困ったことの最多回答(45.6%)でもあり、多くの留学生が就職活動に頭を悩ませているようだ。なお、就職活動で困った例としては、日本での就職に関する情報不足や学業との両立の難しさ、相談相手の不在を挙げる声が多かった。

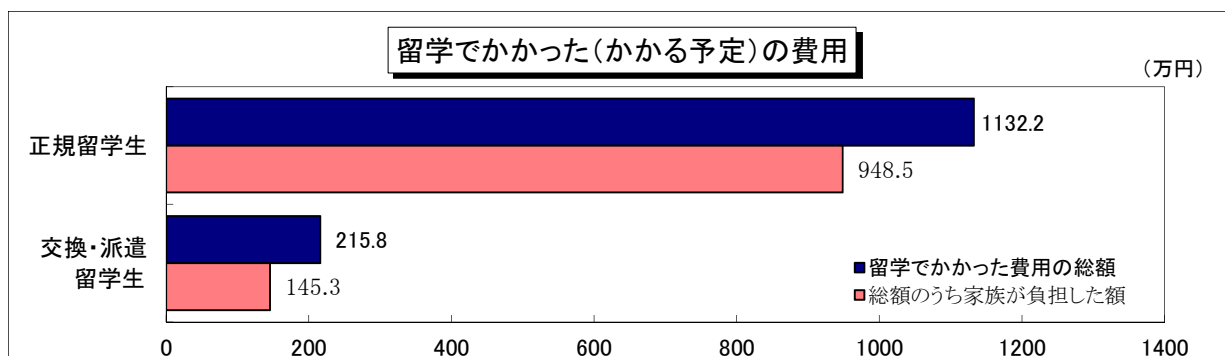


■就職活動の進め方で困ったこと具体例

- 就職活動での圧倒的情報不足を感じた。学業の為、就職活動の時期に帰国できなかった。 <正規留学>
- 海外では、就活に対しての外部からの刺激（学内就活セミナー等）がほとんどないため、就活に対しての意識を持ち続けることが難しいと感じた。 <正規留学>
- 大学のキャリアセンターも日本については知識がほぼ無いため苦労した。履歴書やESも日本人に直接チェックしてもらったり、相談することができないというのは大きな痛手になっている。 <正規留学>
- 就職についての情報収集が難しいことと、学業との両立に苦労している。 <交換・派遣留学生>

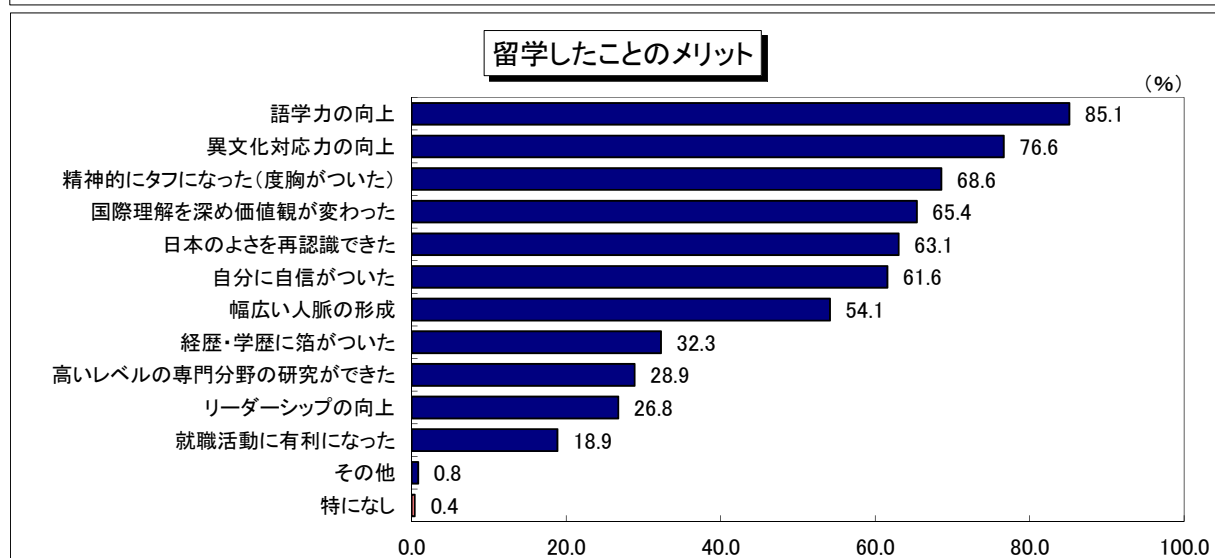
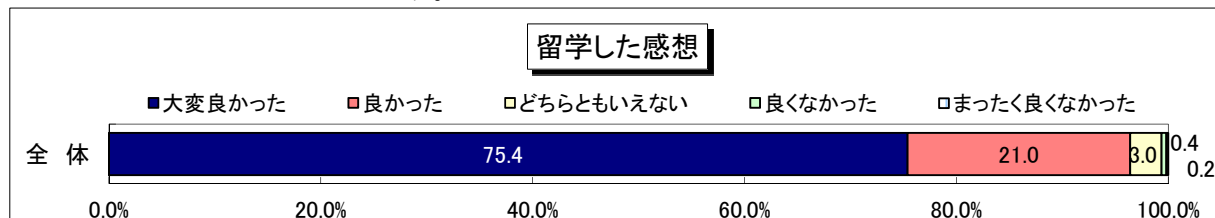
14. 留学費用

留学する上で大きな不安要素である費用について、実際にかかった額と、そのうち家族が負担した額について尋ねた。正規留学生の費用の平均総額は 1,132.2 万円で、留学期間の短い交換・派遣留学生(215.8 万円)の 5 倍以上に上る。また、留学形態に関わらず費用の多くを家族に頼っており、正規留学生で 8 割以上、交換留学生で 7 割近くを家族が負担している。



15. 留学をした感想

留学全般についての感想を尋ねた。「大変良かった」が 7 割を超え (75.4%)、「良かった」(21.0%) を合わせると 96.4% で、満足度は極めて高い。留学したことの成果としては、「語学力の向上」(85.1%)、「異文化対応力の向上」(76.6%)、「精神的にタフになった」(68.6%) が上位。これらの能力の向上は、将来グローバル人材としての活躍を期待されるであろう留学生にとって、大きなアドバンテージになるだろう。



留学によるキャリア観への影響

- 働き方や価値観の多様性に触れたことにより、キャリア形成や己の将来について真剣に考えることが増えた。
留学前は漠然と日系企業の名の知れたところに就職できればと希望していたが、現在ではより職種や業務内容にまで関心を寄せる範囲が広がった。 <正規留学>
- 留学先では、自分なりのキャリアビジョンを持っている人が多いと感じた。自分も自分の進みたい道を自分で考えて、選んでいこうと思えた。みんなと同じじゃなくていいと自信を持てた。 <交換・派遣留学>
- 様々な視点から話をできるようになり、コミュニケーション能力が向上した。また人前で話すことへの度胸もつき、初対面の人との会話も物怖じしなくなった。 <交換・派遣留学>
- 社会問題、特に貧困や移民の問題をより身近に感じられるようになった。国境に隣接する距離の駅の中には移民の人達がはびこっており、治安維持のために銃を持った警官が複数いるのを目撃した。社会問題の解決に寄与できる仕事をしたいと思うようになった。 <交換・派遣留学>
- どんなことでも恐れずに体当たりできるようになった。 <正規留学>
- 自分の中にある日本人らしさや、日本企業の良さを認識したので、外資系ではなく、海外進出を考える日系企業に勤めたいと思うようになった。 <正規留学>
- 留学をしてみて、改めて日本で働き、日本社会に貢献したいと思うようになった。 <交換・派遣留学>
- 国際的な会社に入りたいと思うようになりました。 <正規留学>
- 海外のワークライフバランスのとれた働き方を見て、優先順位が変わった。お金があれば楽しい人生になると思っていたが、お金だけではなく、自分の時間や人と楽しめる時間がとても必要だと思った。 <正規留学>